

## マーケット概況（2022年6月）

6月の債券相場は、10年366回債の利回りが前月末比横ばいの0.235%で取引を開始したのち、FRB高官によるタカ派的な発言や7日の30年債入札が弱めの結果となったことを受けて、超長期債を中心に売りが優勢となった。その後、米国長期金利が一時3.4%台まで上昇し、債券先物9月限に対する売り圧力が強まったことから、15日に日銀はチーペスト銘柄の10年356回債を対象とする指値オペをオファーし、通知前に0.335%で推移していた同銘柄の利回りは0.250%まで急低下した。しかし、債券先物9月限の下落は止まらず、一時145円05銭と2014年5月以来の水準まで売り込まれた。金融政策修正の思惑から、10年366回債の利回りは0.265%と2016年1月以来の水準まで上昇したが、17日の日銀金融政策決定会合の結果が現状維持となったため、同利回りは0.205%まで低下した。また、日銀が同日夕刻にチーペスト銘柄にかかる国債補完供給の要件緩和措置を発表したことから、債券先物9月限は徐々に買い戻される展開となった。一方、超長期ゾーンは、外為市場で約24年ぶりに1ドル=136円台まで円安が進んだことに加えて米国の良好な経済指標も重石となり、28日に30年74回債の利回りが2015年12月以来となる1.305%まで上昇するなどイールドカーブはスティープニングした。10年366回債の利回りも上昇し、0.225%で今月の取引を終えた。

### <短国市場>

3M金利は-0.08%台でスタートしたが、月中旬には需給環境が好転し-0.1%台を中心に推移した。3日の3MTDB1084回債入札は最高落札利回りが-0.08%台となったが、GC金利の低下や海外投資家需要を背景に16日の3MTDB1089回債は-0.13%台、24日の3MTDB1090回債は-0.14%台となった。セカンダリー市場では-0.17%台～-0.18%台を中心に推移したが、月末には投資家需要が減退し3MTDB1090回債は-0.145%売りの気配で終えた。6M、1Y金利は入札が続いたため14日の6MTDB1087回債は最高落札利回りが-0.08%台、15日の1Y1TDB088回債は-0.09%台となった。セカンダリー市場では3Mの需給引き締まりを背景に6M、1Yともに-0.130%まで低下したが、1YTDB1088は国庫短期証券買入オペが最小規模となったことも影響し-0.125%売りの気配で終えた。

### <一般債市場>

10年地方債は国債カーブ+6.0bp、5年地方債は同+5.0bpとスプレッドが維持され、国債償還月に伴う運用資金が潤沢なことから販売は順調に進んだ。既発債は、金利水準がボラティルな動きの中で投資家の慎重な姿勢が影響し、長期・超長期ゾーンのスプレッドのワイド化が意識された。社債は昨年より大型発行は少なく、月間発行額は1兆4,279億円と前年同月比7,081億円減少した。SDGs債関連では、発行体として初めて戸田建設、長瀬産業、オカムラがサステナビリティ・リンク・ボンドを、大阪ガス、IHI、JFEホールディングスがトランジションボンドを、ENEOSホールディングスが国内初のトラジション・リンク・ボンドを起債し投資需要を集めた。

### ◎ 主要債券月間四本値

銘柄	始値	高値	安値	最終出来値
#366	0.235(1日)	0.205(17日)	0.265(17日)	0.225(30日)
#365	0.225(1日)	0.220(17日)	0.260(17日)	0.240(30日)
#356	0.145(1日)	0.130(3日)	0.335(15日)	0.185(30日)
#151-#152(5Y)	0.000(1日)	-0.015(8日)	0.085(20日)	0.020(30日)
#180(20Y)	0.760(1日)	0.745(3日)	0.940(15日)	0.890(30日)
#1082-#1087 TDB(6M)	-0.110(6日)	-0.130(16日)	-0.095(9日)	-0.130(16日)
#1083-#1090 TDB(3M)	-0.104(1日)	-0.200(17日)	-0.090(10日)	-0.180(24日)